※※※※※※※※※※※※※（飯田ふれあい交流センター）※※※※※※※※※※※※※

こんにちは 飯田まち協 です

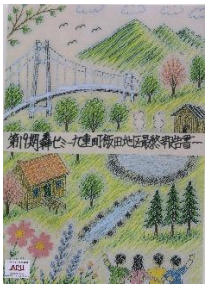
APU 轟ゼミの調査活動の報告書が完成！

今年の６月２７日（土）～２８日（日）、立命館アジア太平洋大学（APU）サステイナビリティ観光学部の轟ゼミの皆さんが九重町飯田高原で調査活動を行いました。

このほど、轟先生が出来上がったばかりの「報告書」を飯田公民館に届けてくださいました。

ゼミ長の谷朋花さんは、「本報告書は、現地で見聞きしたことや皆様との対話をもとに、学生ならではの視点で飯田地区の魅力や可能性について考え、まとめたものです。まだまだ未熟な提案ではありますが、私たちがこの地域で学び、感じたことを形にした成果でもあります。飯田地区の魅力や皆様の思いをより多くの方へ伝え、今後の地域づくりを考える上で少しでもお役に立てれば幸いです。」と報告書（Ａ４判、９０頁）の冒頭に述べています。

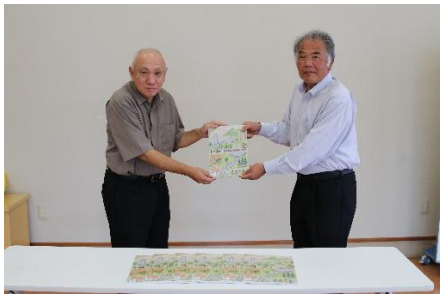
飯田公民館に置いていますので、興味のある方は是非お手に取ってご覧ください。



「報告書」の表紙

＜最終プレゼンのタイトル＞ グループ毎に

① 地熱を活かしたガーデンウェルネス
② 草原リボーンプロジェクト
③ ぐるっと飯田高原
④ 九重のウォーキングコース
⑤ コミュニティバスでつなぐ高原野菜と地域の暮らし
⑥ 飯田地区「静」の観光地域づくり戦略



轟先生(左)から「報告書」を受け取る森会長

コミバスのアンケート、ありがとうございました。

APU 轟ゼミ４年生の E 氏が卒論のテーマに「九重町のコミバス」を取り上げてくださるということで、飯田まち協も協力することになり、九重寿大学や各地区公民館、サロン、集会等でアンケート調査にご協力をいただきました。

お蔭様で 100 を超える多くの回答が集まりました。

このほど E 氏が回収に来飯されました。皆様によろしくお伝え下さいとのことでした。



読書の秋 「読書は自分を見つめる旅」

小さな古本屋に立ち寄った時のお話。

本屋の壁の張り紙に「読書は自分を見つめる旅」とあった。店主は高齢で足腰も衰え、ここ数年、旅行もしてないという。

「それでも国内外の作家の本を読んでは、あちこちを旅している気分だよ」と笑った。加えて「そのおかげで、だいぶ自分という人間が変わったね」とも。

その変化には、二つあるという。

一つは、「自分の考えを絶対視しなくなったこと」。

もう一つは、「自分の考えに確信を持てるようになったこと」。

本を通して、多様な価値観や生き方に触れ、自分を見つめ直す中で培われたという。

読書は、「自分の世界」や「世界への視野」を広げる旅でもあるとも言われます。どれだけの物事や人たちと出会い、自分の内面を鍛え、磨けるか ― そんな有意義な旅路を日々進んでいく「読書の秋」にしたいものですね。



１０月２７日（火）～１１月９日（月）は、読書週間。

2026・第 80 回「読書週間」標語　「静かだけど、冒険中。」